

教育目標・自立した学び手となる

【教育理念】

「聴く学校」

めざす教師像：生徒の存在を丸ごと受け入れ、生徒の声や心の声に耳を傾け、共に歩む教師

めざす学校像：生徒が生きることと学ぶことを統合する学校

《 学校づくりのねらい 》

「聴く学校」を合言葉とする学校づくりと、互いの考えを比べながら聴き合う「協働の学び」の授業を通して考える力を高め、『自立した学び手』を育成する

「協働の学び」の授業における三つの学び方  
わからないと言うこと・友だちの声に耳を傾けること・自分のわからなさを追究すること  
(協働の学びとは、「聴く、問う」からはじまる対話活動を基盤として、課題について少人数で互恵的に語り合うこと)

めざす生徒像

- ・筋道立てて考え、自分の考えを適切に伝える生徒
- ・吟味と検討を繰り返しながら学ぶ生徒
- ・自分のよさを生かして、人の役に立とうとする生徒

《 教育課題と重点 》

教育課題

対話の質を高める

(重点1・学びづくり)

生徒の自発的な対話を促し、思わず挑戦したくなるような「問い」を開発する。

(重点2・関係づくり)

考えを聴き合うことを通して、互いの尊厳を守る関係を構築する

《 教育システム 》

○自立した学習者が育つ学習システム

- ・論理的思考力が高まる教科等横断的な教育課程を編成する。

○地域との協働システム (CS：コミュニティ・スクール)

- ・学校職員と運営協議会委員の合同研修を企画し、学校運営協議会制度に基づく学校づくりのあり方について理解を深める。

○職員の研修システム

- ・ミッション探索カードを活用する教頭との懇談を通して、職員が本校における使命と課題を明らかにする。
- ・LC (ラーニング・コミュニティ) による授業づくりの研修を重ねる。